

「研究紀要」発刊に寄せて

山梨県総合教育センター
所長 佐野 修

2019年度山梨県総合教育センター「研究紀要」が発刊の運びとなりました。昨年度、創立70周年を迎えた本センターは、本県教育の「知の拠点」としての基盤をさらに強固なものとするべく、シンクタンク機能の充実に向け、センター研究の方法をリニューアルしましたが、本年度は、この2年間の成果が、より具体的な形になってきております。平成から令和への改元があった本年度、新たな時代に、その新たな研究成果の第一歩を示したものが、2月20日のセンター研究大会でのポスター発表及びラウンドテーブルであり、そしてこの「2019年度研究紀要」になります。

本センターの全指導主事が研究に関わるというスタンスは、従来の一主事一研究と同じです。しかし、新たな研究のスタイルとしては、まず、4つの研究領域（「授業・学校づくり」・「情報教育」・「教育相談」・「特別支援教育」）ごとに、校種や教科の枠を超えた指導主事チームで研究を進めること。そして、複数年をベースとする研究協力校を指定し、当該校の課題解決に資する研究を、教員と協同で進めていく実証的な研究であること。さらに、各種調査結果の分析等エビデンスに基づく研究の推進のため、山梨大学等外部機関とのより一層の連携を図ること。これらが従来の研究方法から大きく変わった部分になります。

本年度の研究は、「資質・能力の育成に向けた学校教育への総合的な支援ー生きる力を育む実践的指導の在り方ー」をテーマに、4領域6研究チームの指導主事が、例えば、指導案検討・作成やICT機器活用に係る学校設備及び教員の実態把握などに始まり、研究授業実施、研究会や拡大校内研開催、研究のまとめの検討等に至るまで、先生方の考えやニーズに寄り添い、十数回にも及ぶ学校訪問を行うなど、常に協力校とのコミュニケーションを大切にしながら研究を進めてきました。また様々な場面で、山梨大学のアドバイザーの先生方にも参加していただき、専門的な視点からの助言により、より一層研究を深めることができました。

この新たな研究のスタイルは、協力校の課題解決とともに、先生方の資質を高めていく点でも、また、本県の教育力向上に資する先進的な研究事例を蓄積・活用していく視点からも、大変有意義なものであると確信しております。「学校教育を支援する確かな情報発信源」という本センターの使命を、センター研究を通して、より具体的に、わかりやすく、これからも発信していきたいと思っております。

結びに、御協力いただきました研究協力校の皆様、専門的立場から御指導をいただきました山梨大学の先生方をはじめとする関係機関の皆様に、心より感謝と御礼を申し上げます。この研究紀要が十分に活用され、県内各学校の教育がさらに充実していくことを願い、発刊にあたってのあいさつとします。